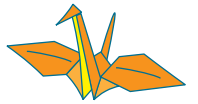


平和の大切さを伝えるために



8月6日、令和4年平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校および義務教育学校の生徒代表8人と引率教諭1人の9人の平和使節団が参列しました。原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげ、原爆被害の実相を知るため、平和記念資料館などを見学しました。平和使節団は、10月29日にクラフトシビックホール土浦で行われた「人権と平和のつどい」で体験発表を行いました。

☎総務課(☎826-1111 内線2010)

張 美希さん(土浦第一中学校)

泣いている人、力強くお互いを抱き締めているカップル、沈黙している外国の人。これらはすべて、原爆資料館で見てきた私の記憶に強く残った人々です。「核は不要」、この派遣で広島へ行って、そういった気持ちを直に受けとることができました。そして、私が持ち帰ることを目標としていた正しい知識、今回だけですべてを理解できたわけではありません。もっと原爆について勉強をして、人々の想いと、正確な知識を伝えていきたいです。



佐藤 歩実さん(土浦第三中学校)

幼い頃から広島市の歴史について関心を持ち続け、今回、平和使節団としての活動の機会を頂けたことに本当に感謝しています。実際に被爆地に行き、自分の目で見て感じるのには、本や資料を読むだけでは得られないものがありました。原爆ドームを見て、資料館で被爆者の苦しみを知り、遠い過去だと思っていた原爆の生々しい傷跡に触れることで、核兵器の恐ろしさを痛感しました。私は、一刻も早く、核兵器が無くなることを願います。



牧浦 卓真さん(土浦第五中学校)

私はこの広島平和記念式典に参加し、学び、感じたことがあります。それは、この広島での出来事を後世につなぐことだと強く肌で感じました。今年で戦後77年を迎えた今、私たちはなにをすべきでしょうか。原爆について学ぶ、それもあると思います。ですが、一度平和記念公園におとずれるのはいかがでしょうか。あの時のキズを肌や心で感じた人々の背中を見て私たちは何を思い浮かべ、だれを守りたいと思いますか。



加藤 菜月さん(都和中学校)

私は広島平和記念資料館を見学し、多くの当時の写真や原爆によりゆがんでしまった物、亡くなった方々の遺品などを目にしました。この展示された実物や写真を見て、私は戦争が本当に起こり、とても悲惨なものだったと改めて感じました。このような事がもう二度と繰り返されないためにも、戦争を知らない多くの人たちに、戦争とは何なのか、戦争で何が起きたのかを語り伝えていきたいです。



中川 貴博さん(都和中学校教諭)

平和使節団として広島へ赴き、広島平和記念式典へ参加し、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを改めて感じたとともに、平和に暮らせることの有り難さを痛感しました。戦争経験の無い、また、被爆者のいない時代へと移りつつある今日の日本で、子どもたちには戦争での悲劇、何が失われたのか、日本が経験した痛みを直視して今後を生きることの大切さを伝えていきたいと強く感じました。未来がより明るく豊かであらんことを。



岡田 理彩さん(土浦第二中学校)

今回平和使節団の一員として広島を訪れ、平和記念式典に参列し、平和記念資料館を訪れたことで、戦争の恐ろしさや平和の尊さを学び、命の大切さについて改めて考えさせられました。式典での言葉や光景は1つ1つがとても重く、鮮明に覚えています。平和使節団に参加したことは、私にとってとても貴重な経験となりました。今回学んだこと、感じたことを一人でも多くの人に伝えていくことが大切だと強く感じました。



阿久津 円香さん(土浦第四中学校)

平和使節団に参加し、平和記念資料館で原爆の威力を示す衣類などの展示品を見学したり、被爆者の体験談に触れたりしたことで、改めて核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを感じました。「戦争は絶対に繰り返してはいけない」ということを、今回の経験をもとに、多くの人に伝えていきたいと思えます。世界から核兵器が無くなることを強く願います。そして戦争のない、平和な日常が当たり前になる日が来ることを信じています。



酒井 美優さん(土浦第六中学校)

私は、平和記念式典に参加し様々なことを学ぶことができました。命の重さや、核兵器の恐ろしさ、そして、戦争がいかに恐ろしく、いかにあってはいけないことかを知り、「これからの未来を変えるのは私たちだ」と強く思いました。たくさんのお話を聞いたり、見たり、感じたりしてさまざまな感情が生まれました。なかには、悲惨なものもたくさんありました。その思いをバネに未来を明るくしていきたいです。



小松崎 潤さん(新治学園義務教育学校)

僕は今回広島平和使節団に参加して、改めて平和の大切さを感じる事ができました。被爆地から160m離れた場所にある原爆ドームはテレビで見ているときとは違い、広島の人達の平和への願いをより一層感じる事ができました。また、被爆者の方の願いは、「戦争はしてはならない、核兵器は無くすべきだ」と共通した思いをもっていることがわかりました。

